（様式3）　　　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272500628		
法人名	株式会社　マザアス		
事業所名	マザアスホーム　だんらん流山		
所在地	〒270－0143　千葉県流山市向小金２－561－１		
自己評価作成日	平成26年12月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号
訪問調査日	平成27年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「地域の交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を基本に、ご利用者が生活に馴染める様な支援をし、ご家族やご利用者の要望・希望に添えるように、ボランティアの方々とも協力をして支援をしています。医療面では、主治医と連携をし定期的に看護師に来て頂き、健康管理や病院への付き添いをしています。「ゆったり、のんびり、あかるい」をスローガンに掲げて長く住み続けて頂けるように、ご利用者やご家族の意見を汲み取って環境・雰囲気作りをしてるので、落ち着いた生活をされている。社内で行っている「感染予防」「防災」「事故予防対策」「研修」の委員会活動に参加をして、実施や改善をすることにより、安心・安全の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

施設の目標である「ゆったり、のんびり、あかるい」を目指して、利用者が地域で楽しく過ごせるように細かな配慮をして支援している。新しい利用者と近所に挨拶に回ることや、施設の周りに花を飾り明るく綺麗な環境にする、施設の中庭を整備して利用者が外で過ごすことで、近隣の人達と気軽に会話を交わすなど、地域の人達と緊密な関係作りができている。また、医師との連携を緊密にして健康を維持するように取り組んでいる。持病の糖尿病が悪化して入院の必要が生じた際、施設での様々な支援の結果数値が改善して、施設での生活継続を医師が了解する結果となっている。施設の利用者が楽しく健康に過ごすための努力は利用者のアンケート結果で家族から高く評価されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を基本に、日頃は「ゆったり、のんびり、あかるい」を目標にして、ご利用者と関わる。事業計画の振り返りをしたり、月一回の職員会議で共通理解を深めている。	地域で楽しく過ごせるように細かなところまで配慮をしており、新しい利用者と近所に挨拶に回ることや、施設の周りに花を飾り綺麗な環境作りに努めながら、近隣の人達と気軽に会話を交わして緊密な関係作りにを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、お花見・夏祭り・防災訓練・芋煮会・敬老会に参加をしている。施設周りの掃除を通して近隣の方と挨拶をして、顔なじみになったりしている。最近では、行事に参加をすると「だんらんさんですね」と言って頂けるようになった	夏祭りで神輿が立ち寄り参加をしている。また、防災訓練で利用者も参加して非常トイレの使い方、担架の移送など体験している。地域の「いきいきサロン」でインストラクターと体操をするなど地域交流が定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ・ボランティア育成の受け入れをしたり、専門施設として相談や見学に対応出来るようにしている。散歩や買い物や地域の行事に参加したときに、気配りの協力を求めたり、支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者一人ひとりの生活状況・活動報告の変化に応じた対応等をスライドを見て頂き、防災・事故予防・感染予防の取り組みをお伝えして、それらに対する意見を取り上げてサービスの質の向上に努めている。	計画通り実施しており利用者、家族、地域代表、行政が参加して施設の状況、看取りの対応、地域交流の中学校の職場体験受け入れなどについて話し合いを重ね、要望に対処している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回のグループホーム連絡会、年6回の運営推進会議を開催して市の担当者とホーム長・管理者との会合を持ち、情報交換を行っています。市への窓口には、定期的に行って意見交換をしている。	グループホーム連絡会が4回実施され、入所部会で情報を交換している。連絡会の施設見学を受け入れて利用者の待機情報など今後の運営課題を話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員議会で「身体拘束に関する基準11ヶ条」の確認をし職員同士で意見交換をして意識を高めている。玄関の錠をしないようにしている。	職員は「虐待の芽チェックリスト」により振り返りを行い、「ちょっと待ってね」など言葉使いの注意点を課題として改善するように留意している。法人の身体拘束研修は受講内容をミーティングで報告して全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に数回、高齢者虐待防止の研修を受講して、職員会議で話し合っています。法人の人権擁護委員会の視察が、年2回行われて意見交換や指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会に参加して、家族会や職員会議の時に説明をして、その必要性についてお話をすることによって、後見人になられたご家族がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・契約の時に、契約の条件・サービスの内容を充分に説明をして、不安や疑問点があれば時間をかけて、理解・納得をして頂いています。解約や返金等についても、理解・納得をして頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催した際に、意見や要望をお聞きしたり、2月に家族懇談会に法人の役職のかたも参加をして事業計画や外部評価等を伝えたり、ご家族の意見を聞くようにしている。個別には訪問された時にお聞きしています。介護相談員派遣時には、感じ取っている事をお	家族会は流しそーめんなどの行事の際に全員が参加して実施しており、口腔ケアの研修などをしている。家族と退院後の散歩を増やすこと、職員の手作りデザートが美味しいなど話し合いながら信頼関係を築いている。	家族会の行事の内容は、家族が不参加の利用者には付き添うことが良いなど職員が細かにメモをとっている。今後は記録に残して次回の計画に活かすように期待する。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の委員会への参加、事務内容別に担当を決めたりして、意識を持って頂いたり、職員同士の意見交換をして意見や提案を職員会議で共有し運営に反映をしている。	職員は「入居者対応チェックリスト」により自分の支援内容の振り返りをしている。大声を出す利用者には遠巻きに見ている事を反省して、ミーィィングで課題を話し合い、今後の支援の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	重度化していく中で、手薄な時間帯をカバーしたりするなど、随時調整をしています。半年ごとに目標を持って頂き、それが達成出来るように配慮をしている。働く環境を整備したりして、職員が気持ちよく働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で開催をする研修会やグループホーム間で勉強会に参加をしている。資格習得の勉強会を開催したり、参加への配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会を各施設で開催をして、見学・意見交換をしている。法人のグループホーム柏市・松戸市の職員を交えて事例検討や情報交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の表情・動作の確認をし、会話を多く持ちご利用者に不安感を与えないように対応をする等の関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族のご要望や困っている事をお聞きして、解決に向けて共に考えるようにしている。入居後は、生活状況等をお伝えして、ご家族の要望をお聞きして信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居後のADL・病状を確認し、まずは安全・安心に生活をして頂くよう環境を整えて、穏やかに過ごして頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでは全く違う生活習慣で過ごされていたので、こだわり・世界観・価値観を受け止め、思いやりを持った言葉かけをしたり、ゆったりとした時間を過ごせる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等を通じて、ご家族との連絡を密にして気軽に訪問しやすい雰囲気に気をつけている。本人が一番安心できる家族とのつながりを大切に出来るようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思い出の場所や出身地の話をお聞きしたり、ご自宅に宿泊をしたり、ご家族宅にて一日を過ごされたりしています。馴染みの理髪店やお店に行っています。	行きつけの美容院に行くことや家族親戚の人が訪れている。お金を所持する事を望む利用者には家族に相談して預けており、買い物には職員が同行して希望の品を買い求めるなどこれまでの習慣を継続するように対処している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの人間関係に慣れるまでは、職員が間に入ってより良い関係が築けるように支援をしたり、気の合う方同士でのお話、買い物、活動の実施をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で移られたご利用者の様子を見に行って、ご家族に報告をしたり、相談があった場合にはお話をお聞きしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とご家族に寄り添いながら、ご希望・要望の情報収集をして、ご利用者の理解度に合わせてお話をして、同意を得るようにしています。困難な場合には、ご家族の意見を交えて望ましい生活の仕方を検討しています。	利用者の状況は生活歴、健康状態、ADLなど23項目を把握しているが、その後の状況について、利用者の好きな食べ物は体調を維持する範囲にする、排便を確認する、頻尿の回数増加は看護師に相談するなど細かに掌握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	課題分析標準23項目を使いアセスメントし、情報を集めている。ご家族の面会時やご利用者との会話の中より、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子の変化について個人記録を付け、心身の状況を職員間で共通認識を持ち、対応をしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者ごとに担当者を決めて、細かなところまで気をつけたり、アセスメントからのニーズを達成する為の目標がどのような根拠からなのかを確認し、職員同士の意見交換やご利用者・ご家族と話し合いをして作成をしている。	援助方針で「自信を持って楽しく生活できるようにする」としており、自立のための提案は食器を洗う作業、料理の皮むき、得意のお好み焼き作りなど職員と話し合いながら取り入れて、利用者の主体性を勘案して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録のファイルにサービス計画のコピーを入れ、直ぐに確認出来るようにして、日々のケアにつなげて情報を共有して見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族になり代わって通院の付き添い、訪問美容の手配、法人の行事やイベントに参加をして交流を図る。家族会を開くことによって家族間の交流を大事にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	流山市のボランティアセンターの協力を得て、囲碁・傾聴・散歩等をしています。四季折々には、宝塚・フルート・オカリナ等の演奏会をして楽しんで頂いています。町内会の行事に招かれて参加をして楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは月２回の往診時に日頃の体調の変化を伝え、ご家族・職員の相談を受けて頂いたり、緊急時には医師・看護師・ご家族に連絡をして、病院につないでいます。	主治医はほぼ毎朝来所し、利用者は月２回受診している。整形外科・眼科等は基本的には職員が受診支援している。また歯科の訪問診療もある。受診結果は家族に連絡するとともに連絡ノートに記入して職員共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	マザアスホームの看護師が、週１日在中をし医療面の相談、受診時の付き添い、緊急時の対応をして頂いたり、電話では昼夜問わず些細な事でも相談できるように支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の協力を得て、病院への紹介書を書いて頂いています。ご利用者の入院中は、定期的に訪問をして様子を見ながら、病院の看護師・相談員と情報を交換したり、早期に退院が出来るように調整をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス計画の説明時だけではなく、日頃の面接時から出来るだけ様子の報告を欠かさない。身体に無理なく過ごせるよう配慮し、変化がある時にはご家族・職員との話し合いの機会を随時持ちながら、要望をお聞きして施設で対応出来ることをお伝えして、将来への不安を少なくしている。	利用者が重度化したときは、主治医・看護師・家族・職員で密な連携をとり、終末期に向けた方針を確認・共有する。そして終末期を迎え、今年度初めての看取りを行った。家族から感謝の言葉が寄せられ、職員は「看取りができてよかった」と支援の充実を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に慌てないように指示書や緊急連絡網を作成して、職員間で共通意識を持って対応をしている。法人との間で定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年４回の防災・避難訓練をしている。管理者防災員を中心にご利用者も参加をして頂き、積極的に活動をしている。地域の防災訓練に参加をしたり、防災倉庫を	年3回防災・避難訓練を実施している。うち１回は夜間想定で、災害発生から5分以内で何が出来るのかに重点を置いて、通報・避難経路・避難場所を実地確認した。そして近隣施設・住民との協力体制作りをしている。	災害時に他事業所との具体的な協力の役割を確認したり、近隣住民に声掛けしてAED取扱い訓練を実施する等の取り組みを期待している。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を大事にして、人生の先輩として尊敬の念を持ち接しています。職員同士の連絡の時にも誇りやプライバシーを損ねない対応をしています。	利用者は人生の先輩であり、尊厳を傷つけないよう配慮し声掛けに注意を払っている。「入居者対応チェック表」を利用して「ちょっと待って」「食事・入浴を無理強いする」をなくすよう職員相互に確認し、ゆっくり・丁寧・明るくを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つの行動から別の行動に移る時、本人の意思を確認して尊重をしています。スローガンにもある、ゆったりした気持ちで受容的に接して、気持ちを伺いながら判断して頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者やご家族に、以前の生活習慣についてお聞きして、そのリズムを崩されないように支援をしている。散歩したい、ゆっくりしたい、晩酌をしたい、毎朝位牌に手を合わせたい等の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、お化粧道具の用意をして、行事や外出の時には、お化粧や爪にマニキュアをしておしゃれを楽しんだり、服や靴等の買い物に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力にあった食事形態を工夫し、音楽を流してゆっくりと食事をして頂いている。季節の行事に合った食事内容を工夫している。ご利用者と一緒にスーパーに買い物に行き、好みの物を選んで頂いたりしている。	食材は外注し、職員が調理している。利用者が食べやすい大きさに刻み、とろみ・ミキサー食等提供し、出来るだけ原型を保つよう工夫している。庭で育てたブロッコリーを食べたり、ベランダでバーベキューをしたり外食支援もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェックして、その都度記録をして摂取量の意識をし、不足の場合には捕食をしている。嚥下状態や体調に合わせて食事形態を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけや促しをして、歯磨き・うがいを行い、出来ない方には一部介助・全介助で口腔ケアをしている。ご家族の協力の元歯科の定期健診をして、早めの対応をしている。入歯の洗浄剤の使用は、夜間に週3回行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンや動作でトイレへの声かけ誘導をしている。排泄チェック表を利用して、間隔があいている時は声かけをしたりして、トイレを利用し自立への支援をしている。	利用者の排泄記録・パターンを確認しトイレ誘導している。「何となく目で訴える・立ち上がる」等の仕草を確認し、「立てますか？そこまで行きませんか？」等の声掛けをする。その成果としてポータブルトイレから布パンに複数改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後は、排泄が習慣になるようにトイレへ誘導をしている。起床時の水分補給・腹筋を使う運動・散歩や食物繊維と乳酸菌食品を取って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や状態観察の後に入浴をしている。入浴のタイミングの希望がある方も、調整をしている。ご利用者に皮膚湿疹の方が居られるので、毎日のシャワー浴をして対応をしている。	入浴前に体温・血圧をチェックし体調の確認をして、通常週3回入浴している。入浴できない方は足浴しながらシャワー浴、あるいは清拭で対応している。また転倒防止のため、滑らないマットを敷いたりシャワーチェアを使用したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状況や体調に合わせて、日中でも休息が取れるように支援をし、夜間はあまり明る過ぎないよう落ち着いた環境を整える。日中の生活を充実させて安眠につなげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の使用目的・副作用・用法・用量について確認をして、薬が変更になった場合にも確認をし、服薬後の様子観察をしています。服薬準備と服薬介助者は別の職員がして、チェック表に確認のサインをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブの好きな方と出掛けたり、お花の好きな方と一緒に手入れをしたり、チラシ折り、洗濯物たたみ等、生活の中から出来る事を見出し、ご自分の役割として積極的に関わってい頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物やドライブへ行ったりと、出来るだけ外出の機会を持っています。天候の良い日には、テラスでお茶を楽しんだり、庭でお食事をしたりしています。月に1～2回は、外出行事として四季の草花観賞・外食をして支援をしています。	歩行困難の方も含めて利用者全員が散歩可能で、体調・天気の良い日には近所を30分かけて散歩して、カボチャをいただいたり地元交流も盛んである。ボランティア支援の時もある。そして近くのスーパーに買物に出かけたり、ブドウ狩り・家族と一緒にファミリーレストランでの食事支援もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際には、能力に応じて支払いのお手伝いをして頂き、おつり等も確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご利用の方には、ご家族からの電話を何時でも受け易いように、充電等に気を配っています。お手紙が届いた時には、能力に合わせて、開封を手伝ったり、読んだりして支援をしてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室外環境整備担当の職員を中心に、四季折々の草花を植えたり、そのお花を摘みご利用者の方々に生けて頂いています。また室内担当の職員を中心に、作品の展示・歳時記を感じるような飾りつけをしています。日中を過ごされるリビングは、吹き抜けなので明るくゆったりとした環境です。	リビングは2階まで吹き抜けで明るく、掃除が行き届いて清潔な空間になっている。庭に花が植えられベランダにはテーブルと椅子が設えられている。室内は職員と一緒に作った吊るし飾りや新聞紙の色つき部分を利用した大きなちぎり絵が四方に飾られ、居心地の良い工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の方が、庭を散策されるベンチでゆったりされたり、テラスの椅子に座って風を肌で感じられたりしています。リビングでは、その日の気分によって好きなところに座り、お隣の方と自然に会話をされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れたテーブル・椅子・思い出の品等を配置したり、ご家族の来訪時には居室にてゆっくりと過ごせるようにしている。位牌を置いて、毎朝手を合わせる方の支援をしています。	部屋の入口にはカラフルなボタンで縁取りされた家族写真と、小タイルで縁取りした名前が飾られている。室内には使い慣れた小テーブルと椅子・ラジカセ・囲碁用具等が持ち込まれている。温・湿度は職員が利用者に合わせて調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立をした生活が送れるように、必要なところに手すりを付けました。居室では、ご利用者に合ったベッドや介助バーを設置し、自立を支援しています。		